



まとめ

2025 先生のための

夏休み経済教室

2025,8,20 中学校部会

会場：慶応義塾大学三田キャンパス 北館3階 大会議室

東京都八王子市立八王子第二中 松平裕介先生

「日本の諸地域 関東地方 ～身近な地域、八王子を取り上げる～」

- 予測不能な世の中であるからこそ、地域のあり方という未来を考えることや構想することは大切である。自分事として考えやすい。
- 身近な地域を取り上げることで経済視点を捉えられやすくなった。
- どんな地域にしていきたいかという地域課題に向き合えた。
- ・スケールの問題をどうやって克服していくのか。
- ・日本全体として都市と地域の差をどのように考えていけばよいか。

埼玉県さいたま市立白幡中 市川慶太先生

「経済の視点を基に江戸時代を捉える」

- その当時の未知の出来事に対して、徳川吉宗・田沼意次・松平定信がどのように向き合ったのか、経済の視点を基に捉える。
- 幕府の政治改革は経済の視点抜きには腑に落ちる授業にすることは難しいと考える。
- ・幕府の経済政策を日本全体の課題として捉えることは難しいか。
- ・歴史の授業として背景、原因、結果、因果関係に気付かせるためには。

新潟県糸魚川市立糸魚川中 仙田健一先生

「身近な地域から未来を考える金融の授業」

- 地域金融を中心に考えることで地域のつながりを認識し、地域経済の構造を把握し、地域への効果的な働き掛けを考察する力を養う
- 金融を通して、地域の未来を考えることを通して、新しい価値を生み出すことができた。
- ・金融や地域経済に対する理解度にばらつきが生じた。学びが抽象的で実感を伴わないものとなった可能性がある。
- ・内容の焦点化し、「よりよい社会」の形成を考え、行動に結びつけるには。

小谷勇人先生からの問題提起

思考バイアスを抑え、精度のよいアブダクション推論ができるような学び方とは。
「想定外」や「板挟み」と向き合い、乗り越えられる人材を生み出していくには。

関谷文宏先生からの提案

- ・これから求められる経済の学びとは。
- ・各実践の評価、これからの授業の在り方とは。

登壇者からお話

- ・実際の授業の様子
- ・実践の成果と今後の授業のあり方について

会を通して考えたこと

経済の視点を取り入れることで三分野の学びはより深い理解を導くものになっていく。また、身近な地域を取り入れることで自分事として考えやすく理解を深めることにつながっていく。

その当時を生きた人にとっては常にVUCAであり、その時代の課題をどのように解決しようとしたのかを学ぶことは重要である。

「腑に落ちる⇒問いがあって、そういうことかと納得すること」 授業者は常に問いをもち、教材研究、授業作りを行っていく。